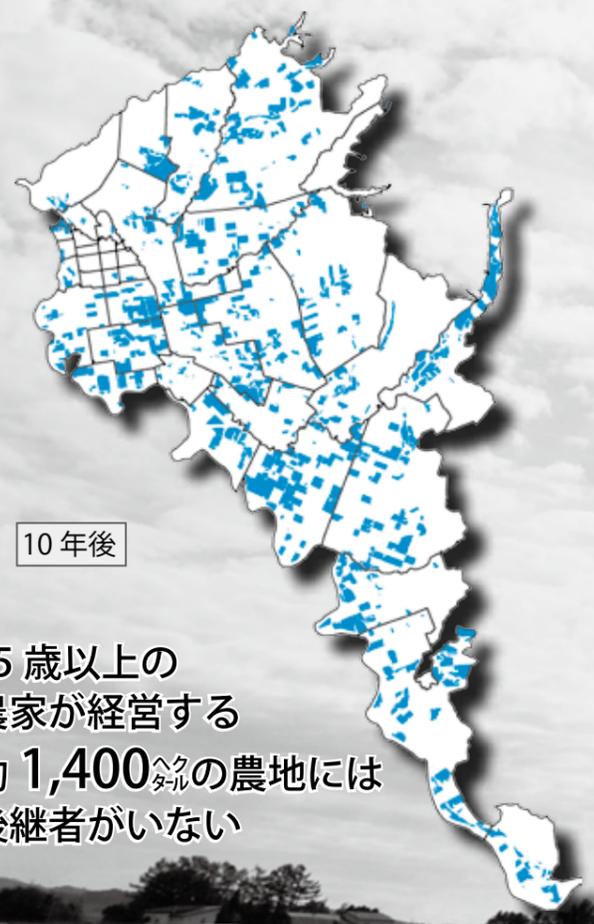


農地を未来へ繋ぐ

あした



65歳以上で後継者がいない農家が経営する農地を色で表わす。10年後には更に広範囲が染まる。これ以降も農業経営者の高齢化は避けられない見通し。

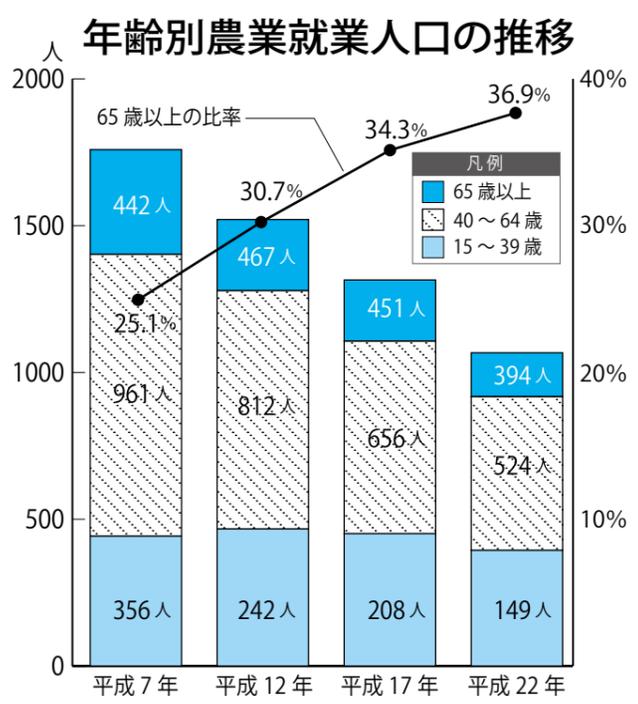
現在

10年後

65歳以上の農家が経営する約1,400^{ヘクタール}の農地には後継者がいない



明治21年に開拓の鉞がおろされて以来、先人の努力と先駆的な取り組みを受け継ぎ発展してきた栗山町の農業。先人により拓かれた農地は、食料を生産するだけでなく美しい農村景観を生み出す大切な資源です。その農地の未来へ繋ぐ新たな取り組みが始まっています。



受け入れ、地域の一員として育てる農業者。この両者にスポットを当てました。地域が育て、地域と共に歩む両者の様子から地域にとっての農業の新規参入の必要性を探ります。

また、町農業振興公社の理事で北海道大学農学研究院の柳村俊介教授に、農業への新規参入の必要性や、今後の期待と課題について話を伺いました。

栗山町のこれからの農業・農地を守るため考えてみましょう。



農地を守る農業者 その将来は

田畑を守る農業者数は年々減少し高齢化の一途をたどっています。推計では、10年後に65歳以上で後継者がいない農家の農地面積は約1400^{ヘクタール}にも及びます。

これまでも、1戸当たりの経営面積の拡大や、複数の農業者で構成する地域連携型の農業生産法人の設立、青年農業者を対象とした『くりやま農業未来塾』による地域リーダーの育成など、地域の農業者を中心とした対策に取り組んできました。

新たな担い手を育てるためには

農業・農村情勢は依然として厳しい状態にあります。だからこそ、『新たな担い手』を育てるため、地域の農業者や町、JAなどの農業関係機関が一丸となってサポートをしなければなりません。

地域と共に農業の道を目指す研修生。そして、研修生を



新規就農を目指す 研修生に聞く

今年7月から御園地区で牧場を営む大井賢治さんのもとで研修中の菅野義樹さん（福島県出身）に、栗山町での暮らしや、これからどういった農業経営を目指していくのか伺いました。

なぜ研修の場を栗山町に決めたのか

酪農学園大学（江別市）在学中に道内各地を周り、南知周辺で畜産放牧を始めたいと思っていたところ、知人から大井さんを紹介されたのがキッカケです。

未知の地域での暮らしや、新たに農業を始めるにあたって期待と不安はないか

家族がこちらでの生活に慣れるか心配でした。栗山町は、まちづくりを一生懸命やっているところが魅力的で、この地域で農業がやれると面白そうだなと思っています。

生活の場としての栗山町の魅力は

受け入れ先の大井さんをはじめ、地域の皆さんに良くしてもらっています。人が温かい町だなと思います。とても感謝しています。

また、牧場から見える景色が素晴らしい。一日の作業が終る頃になると、夕日が落ちていく景色がとても綺麗です。

農業経営の場としての栗山町の魅力について

牛の餌になる牧草、稲わらがとても良く、水田地域で牛を飼うメリットが十分にあります。また、牛の市場が近いことや、食肉加工した場合、札幌市が近い事で販路確保も行いやすい。地の利があります。

菅野さんにとって農業とは

原発事故があった時に、自分の人生について問いました。今まで当たり前であった農業のある暮らしをこれからも続けたい。牛と過ごす生活を送りたい。という想いが強かったため、農業とは自分の人生そのものだと思います。

将来はどのような農業経営を目指すのか

和牛繁殖の盛んな地域と、そうではない地域の差はありますが、近くに同じ仲間がいるという事は心強いです。放牧による和牛繁殖経営を目指しています。妻も経営に関わり、将来は食肉加工なども手掛けたいです。

大井さんの経営を見て感じたことですが、傾斜や区画が狭いなど条件の悪い地域の農地の受け手となって耕作放棄地を防いでいます。

農業は環境的な社会的役割を担っています。自分も農業

生産と社会的な役割の両輪を担って、地域に貢献できる部分を受け継ぎたいと思っています。

大井さんの後ろを追いながら農業を出来たらよいと思っています。

社会や地域に 貢献したい

interview

新規就農研修生

菅野 義樹さん (34歳)

1978年生まれ。福島県飯館村に18代続く農家の後継者。放牧による和牛繁殖を中心に農業に従事していたが、福島第一原発事故により計画的避難区域に指定され、北海道に移住。故郷への復興活動を続けながら、現在は営農再開に向け御園地区の有限会社ランサーデーリィサービスで研修中。





地域の支え無しでは成しえないこと

interview

北海道大学大学院農学研究院

柳村 俊介 教授

4月より栗山町農業振興公社の理事を務める。農業への新規参入や農村振興を中心に研究している。

―なぜ、今、農業への新規参入が必要なのか
栗山町をはじめとする北海道の農村は、町の社会・経済・人口をどのように維持するかという課題に直面しています。特に人口を維持するためには社会・経済を維持するための基礎条件です。人口を維持し、経済を縮小させない取り組みが必要です。
農村では高齢者を含む農家人口・農村人口・農業就業人口の維持が必要で、それを土台とした農業生産額と農村社会を維持することが必要です。これには、町外の若い世代の人にも農業に参入してもらうことが必要です。

―地域で育てる意義
農業の資源には、土地や機械などの『有形資源』と、技術や経営のノウハウなどの『無形資源』があります。

特に『無形資源』は地域が主体的に取り組まなければ引き継ぐことができません。地域でうまく支えていかなければ新規に参入しようとする人がいてもうまくいきません。地域社会で一番大事なものは、信頼関係を構築して人間関係資本を高めることです。地域にとっても新規就農者を



地域の将来を語り合える仲間として期待

interview

有限会社 ランサーデイリーサービス 代表

大井 賢治さん (59歳)

御園地区で和牛の繁殖経営を行う。和牛230頭を飼育。新たに栗山町での就農を目指す菅野義樹さんを研修生として受け入れている。

―地域の農業の現状
大きな問題に後継者の問題があります。地域には後継者のいない農家がたくさんあります。後継者候補がいても継がない理由は色々ありますが、安心して農業を続けられない環境だというのは一つの理由ではないでしょうか。
後継者がいなければ、将来農業をやめていかななくてはなりません。そういう状況では、地域で将来のことを前向きに話しあうことが難しくなっています。

―研修生を受け入れて感じる

菅野さんは町や農業が衰退していく中で「栗山町に住みたい」と言ってくれました。そして、この地域で新しく農業を始めようとしています。私たちも、栗山の良さを改めて気づかされました。ずっとこの地域で暮らしている私たちにとって、地域の良さを見直す良いチャンスだと思っています。
ひとりでも農業者が増えることはとても喜ばしいことです。地域にとってカンフル剤の役割も果たしてくれています。

―新しい方が地域に入ること

仲間が増えるということは知識も増えるということだと思います。私たちも勉強になることがたくさんありますし、協力し合えることがたくさんあります。

若い人たちが集まって、いろいろなことにチャレンジできる環境が一番良いと思っています。ひとりでも多く参画してもらって地域で農業を守って行きたいです。

―研修生に期待すること

農業は地域に生かされる産業です。牛からは堆肥が作れ、水稲や小麦などの作物へ還元できます。そして、水稲や小麦から生まれる稲わらや麦わらが畜産に利用されます。地域の繋がりを考えた営農に取り組んで社会的な役割も担ってもらいたいと思います。

―地域としてどんな体制を築くべきか

このまま農業の担い手が増えなければ耕作放棄地は増えるばかりです。農地が荒廃すると地域まで荒廃してしまいます。しかし、農家は憧れだけで

サポートしていくことはとても意義のあることです。

―地域と関係機関のそれぞれが取り組まなければならないこと

新たに農業を始めるには高いハードルがあります。その一つに資金の問題があります。土地や機械を取得することはたくさん資金が必要になります。新規参入者の経営を確立させるためには、初期投資を抑えて小規模で始めることが大事だと思います。

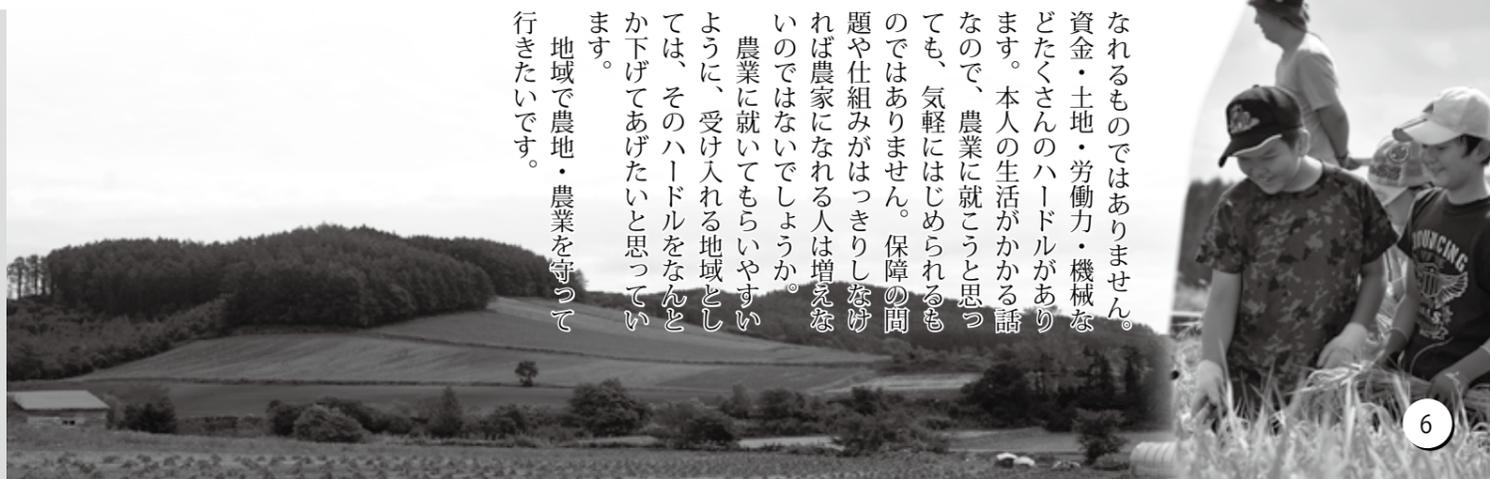
ある先進的な自治体の地域では、新規参入者を支援しようとして、地域の農家に眠る使わなくなった農機具を世話してあげたり、経営が安定するまで農地を貸してあげたりとサポートした事例があります。

新規参入者が地域に溶け込み、地域の一員として迎え入れられたことで、資金のハードルが低くなったのです。

新しく農業に参入するためには一番重要なことは地域の理解であり、サポートです。

なれるものではありません。資金・土地・労働力・機械などたくさんハードルがあります。本人の生活がかかる話なので、農業に就こうと思っても、気軽にはじめられるものではないかもしれません。保障の問題や仕組みがはつきりしなければ農家になれる人は増えないのではないのでしょうか。
農業に就いてもらいたいというように、受け入れる地域としては、そのハードルをなんとか下げてあげたいと思っています。

地域で農地・農業を守って行きたいです。



取材を終えて

後継者がいない農家の比率は50%を超えています。私たち栗山町民にとって当たり前のようである農村風景。この風景を未来に残せるのだろうかと考えさせられました。

一方で、環境問題などから自然に関心を持ち、農業で生活したいという方も多くいます。しかし、新たに農業を経営し、生活していくことは簡単なことではありません。地域の理解やサポートなしでは困難なようです。

取材先で『農地が荒れるということは地域が荒れてしまうこと』という言葉が聞きました。その言葉には、農地が荒れるだけでなく、地域の繋がりが失われてしまうという意味が込められているように感じました。

地域に新しい一員を迎え入れることは、地域のこれからを考えるいい機会になり、地域の繋がりがもたらしていくのではないのでしょうか。地域の繋がりがこそ、これからの栗山町の農業を支える大きな資本になると感じました。

自治基本条例骨子を提案



～約1年半の検討の成果を報告～

くりやまの自治基本条例をつくる会（高橋慎代表）が10月3日、椿原紀昭町長へ、栗山町自治基本条例骨子を提出しました。同会は、昨年6月に公募に応じた12人によりスタートし、自治基本条例に定めるべきルールや仕組みについて協議。町民との懇談会、ワークショップ、町民アンケート等の取組も行いながら約1年半をかけてまとめた成果を町長に報告しました。

町民懇談会など 計48回の活動

つくる会が実施した検討会議、研修会、町民との懇談会、ワークショップなどの活動は主なもので48回を数え、各分野の関係団体、子育て世代の女性グループ、青年団体との意見交換や、町と協力して全戸対象のアンケート調査を実施。条例内容の検討にあたって、町民の皆さんの意識や意見等の把握に努めてきました。

「情報の共有」「町民参加」 を基本ルールに

つくる会の11項目からなる骨子の最も重要な基本原則は「情報の共有」と「町民参加」。町民と議会・行政が町政に関する情報を共有したうえで、町民が参加し、その意見を反映して町政を進めることが自治の基本であるとしています。

まちの重要課題の検討段階からの情報公開と町民参加、町民意見への適切な応答、町の各審議会等の公開など、町には、今まで以上に町民が町政に参加できる仕組みの充実を求めるものになっています。

◆◆◆◆ 活動を終えて…高橋 慎 代表 ◆◆◆◆

私たち「つくる会」の約1年半にわたる活動は、検討会議や懇談会、講演会など、主なもので48回を数えました。自治基本条例の中心的な柱となるべき「情報の共有」と「町民参加」を念頭に置き、今回の骨子検討の過程においても、町民の皆さんに理解いただき、参加していただけるよう、私たち自身が町民の皆さんと向き合い対話する努力もしてきました。地域の自治組織の皆さんや、PTAなどの教育関係団体、多く集まってくれた福祉団体、子育て中の若いお母さん世代、青年団体、そして次代を担う子どもたちまで、多様な町民の皆さんとの意見交換から得たものはとても大きいものでありました。

ハードなスケジュールでの作業でしたが、12名の委員全員に最後まで責任をもって遂行してもらいました。栗山町民が伝統的に培ってきた住民自治や福祉・環境・教育など他の自治体に比較しても誇るべき町民参加の気質が、この条例によって、さらに成熟していくことを確信しています。



◆つくる会自治基本条例骨子（提案）の主なポイント

情報の共有

町は積極的に情報を公開し、町民と共有すること

- まちの重要課題については、計画段階から積極的に町民に情報を提供すること
 - ※まちの重要課題とは？
 - ・総合計画などの町民生活に影響を与える重要な計画をつくるとき
 - ・町民生活に影響を与える条例を制定、改廃するとき
 - ・公共施設の新設、廃止、大きな改良をするとき など
- 各年度の主な事業の成果を積極的に町民に公表すること
- 審議会・委員会などの会議を原則公開とすること
- 編成の過程も含めた予算情報や、町財政の状況・見通しをわかりやすく公開すること

町民参加

町政への町民参加を推進し、その声を尊重すること

- まちの重要課題については、計画段階から町民参加の機会を設け、町民から出された意見などに対しては、その採否と理由を迅速に回答すること
- いつ、どこで町民の参加機会があるのか、決定までのプロセスを明らかにすること
- 町民参加にあたっては、事前に必要な情報をわかりやすく提供すること
- 地域・年代・性別などに偏りがなく、町民が参加しやすい機会づくりをすること
- 審議会・委員会などの委員の人数は公募を原則とし、委員の重複を最小限にすること
- 町民も町政に積極的に参加する意識を持ち、発言や行動に責任を持つこと

その他

【子どもの参加】

18歳未満の子どもたちは、それぞれの年齢にあった方法で、町政に関する情報知り、参加する権利があります。「ふるさと教育」を推進し、子どもの自主性・主体性を尊重した体験・参加機会づくりをすること

【住民投票制度】

町政の重要な事項について、住民の意思を直接確認する必要があるときは、住民投票を実施することができます。住民投票実施にあたっては、町は、町民に対する公平な情報提供を行い、その結果を尊重すること

【町民の意見・要望などへの応答】

日常的な町民の意見・要望などに対して、町は適正に事実関係を調査・把握したうえで、迅速かつ誠実に応答しましょう。

つくる会提案を 尊重して素案づくりへ

つくる会からの骨子の報告を受けた椿原町長は、「長い間、ご尽力をいただきありがとうございます。皆さんからの提案を尊重して素案づくりの作業を進めたい。町としてもさらに素案段階で町民の皆さんへの説明機会を設け、最終的には、12月議会での提案を目指していきたい。」と述べました。最後に、高橋代表は「この条例は、制定後、町民と町によりきちんと活用されることにより生きてくる。これから町民説明会をはじめ、行政で多くの労力が必要になるが、栗山らしい条例にしていきたいと思います。」と応えていました。





素案
説明

自治基本条例と景観条例

町民説明会を開催

平成 25 年 4 月の施行を予定しています「自治基本条例」と「景観条例」の素案がまとまりました。それぞれ条例づくりの検討段階から、多くの町民みなさんの参加をいただきながら進めてまいりました。最終的な条例制定に向け、より多くの町民皆様のご意見を反映させるため説明会を開催します。今後の町政運営において重要な条例となりますので、皆さんの積極的なご参加をお願いいたします。

◆懇談の内容

- 自治基本条例と景観条例の素案説明と意見交換
- 地域における課題・要望などの意見交換

□問い合わせ：町経営企画課地域政策グループ ☎ 73 - 7502

皆さんの大切な声！
ぜひ、お聞かせください



■説明会開催日程

実施月日	時間	場所
11月13日(火)	14:00～	鳩山公民館
	16:00～	雨煙別公民館
	18:00～	北学田中央公民館
11月14日(水)	14:00～	湯地中央公民館
	16:00～	緑丘公民館
	18:00～	桜山会館
11月15日(木)	14:00～	勤労者福祉センター
	18:00～	共和公民館
11月16日(金)	14:00～	三日月公民館
	16:00～	阿野呂第2公民館
11月17日(土)	14:00～	富士中央公民館
	19:00～	カルチャープラザ
11月19日(月)	14:00～	南学田公民館
	18:00～	南角田公民館
11月27日(火)	14:00～	旭台生活環境改善センター
	16:00～	杵臼公民館
	18:00～	中里会館
11月28日(水)	14:00～	円山文化センター
	18:30～	角田改善センター
11月29日(木)	14:00～	日出生活館
	18:30～	南部公民館
11月30日(金)	14:00～	滝下公民館
	14:00～	御園公民館
12月1日(土)	14:00～	総合福祉センター
	18:30～	総合福祉センター

※お近くの会場で都合がつかない場合は、他の会場でもご参加できます。
※上記の他、団体向けの説明会を、11月12日18:30（総合福祉センター）と11月30日18:30（カルチャープラザ）に予定しています。

こんにちは！ 私たち

栗山青年会議所です。⑩

栗山青年会議所
新規会員募集中!!

こんにちは。社団法人栗山青年会議所総務委員長の中井浩輝です。
今年のス
タート時は
会員数12人
で出発した



当青年会議所ですが、本年度は私たちと共に「明るい豊かな社会の実現」に向けて活動してくれる新入会員6人が入会してくれました。

青年会議所は20歳から40歳までという限られた年齢で構成され、地域に根差した活動、また、1年ごとに役職が変わりその立場で学ぶことができる自己修練の場として次代を担う青年世代が活動する団体です。いつの時代も青年世代がこの町に対してできることを考え、行動に移して行く必要があると思います。まちの未来のため、自分のために一緒に活動してみませんか？今後も多くの方のご入会をお待ちしております！

「共に考えようくりやま親」
当青年会議所の事業として10月11日に「大人が変われば未来が変わる」と題し、松居和氏の講演会を行いました。

将来を担う子どもたちの健全なる成長のためには、家庭・地域社会に携わる大人の意識改革が必要です。松居先生からも講演の中で、積極的に地域教育に係わる大人を増やすことで築く絆「親ゴッコ」の重要性を強く発信することができました。松居先生のお話をたくさんの方々に聞いていただきたく、当日の講演会を収録したDVDを貸出しておりますので、ご希望の方はお気軽にお問い合わせください。

■問い合わせ

栗山青年会議所事務局
☎ 2345



松居和氏の講演「大人が変われば未来が変わる」

ふるさとの川『夕張川』に
サケがたくさん帰ってきた！

社団法人栗山青年会議所理事長 土井 猛
「川づくりはまちづくり」の旗印のもと、かつて石炭の洗炭で真っ黒だった夕張川にサケを戻したいという想いで、私たち栗山青年会議所がサケの稚魚放流事業に取り組んでから5年が経ちました。

最低でも50匹程度の遡上を確認

町民皆さんとともに、これまでの5年間で約3万匹の稚魚を放流し、述べ5000人もの地域住民の方々に



ご参加いただきました。学説上はサケの回帰率は2%程度といわれていますが、今年の10月には放流したサケが、3年魚、4年魚を中心に、少なくとも50匹程度は栗沢頭首工まで遡上していることを目視で確認することができました。

自然産卵までは遠い道のり

しかしながら、堰（せき）を超えることができず、そこで息絶えてしまうサケがいることも現実です。本年6月

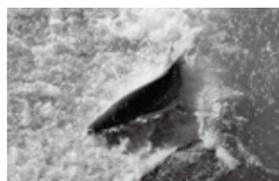
には、悲願であった栗沢・長沼両頭首工と支流の落差工課題解決に向け国土交通省に対し、町・ハサンベツ里山計画実行委員会・当青年会議所の3者連名で要望書を提出。頭首工や産卵場所となる夕張川支流への魚道設置に向けた行動を進めています。

これからの活動！

ふるさとづくりにご協力をお願いします
今年、サケの稚魚を卵から育てていただく里親募集や、サケの産卵場所として期待される雨煙別川の清掃作業など、色々な形で皆さんにご協力いただきましたが、この魚道設置を実現するために、今後とも流域住民である多くの町民皆さん参画のもとで、この運動を展開していきたいと考えていますので、引き続きご協力をお願いいたします。



サケの遡上確認調査



遡上してきたサケ